

令和5年度 学校魅力化フォーラム 事例発表

— 新しい扉を開く —

10年先を見据えた学校創生

 宮城県白石市教育委員会

令和5年8月9日

宮城県白石市の位置

宮城県南部、蔵王連峰のふもとに位置



白石市全景



宮城県白石市の概要

人口： 31,584人（令和5年6月末）
面積： 286.5 km²

本市の目指す将来像

「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」

白石市は、白石城の城下町であった街中には掘割と水路に加え、商家の蔵が点在し、当時の趣を残している。

また、古くより人々の体を癒してきた温泉地や蔵王山麓が織りなす自然の美しさなど、さまざまな見どころがギュッと詰まった街。



数々の歴史



癒しの温泉地



伝統の技



地元で愛される食

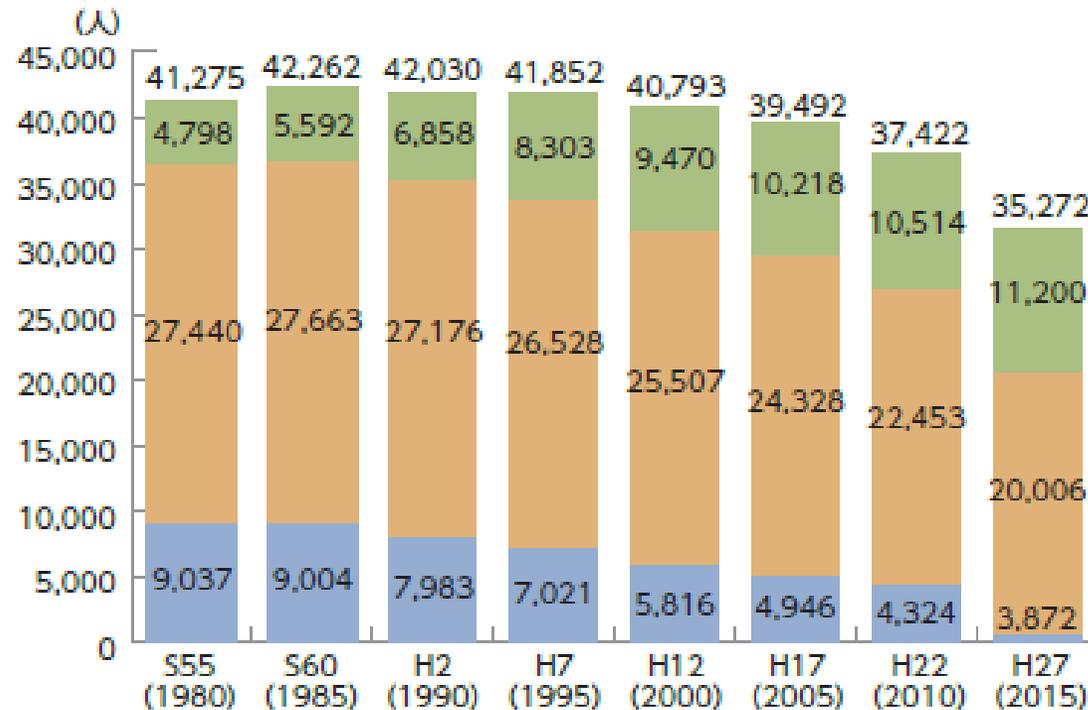
「選ばれるまち」 「持続可能なまち」

白石市 人口推移

◎人口減少・少子高齢化が急速に進行

- 本市の総人口は、昭和60（1985）年から減少傾向となり、平成27（2015）年には35,272人となっている。
- 年少人口及び生産年齢人口が減少する一方で、老年人口は増加し続けており、約3人に1人が65歳以上の高齢者となっている。

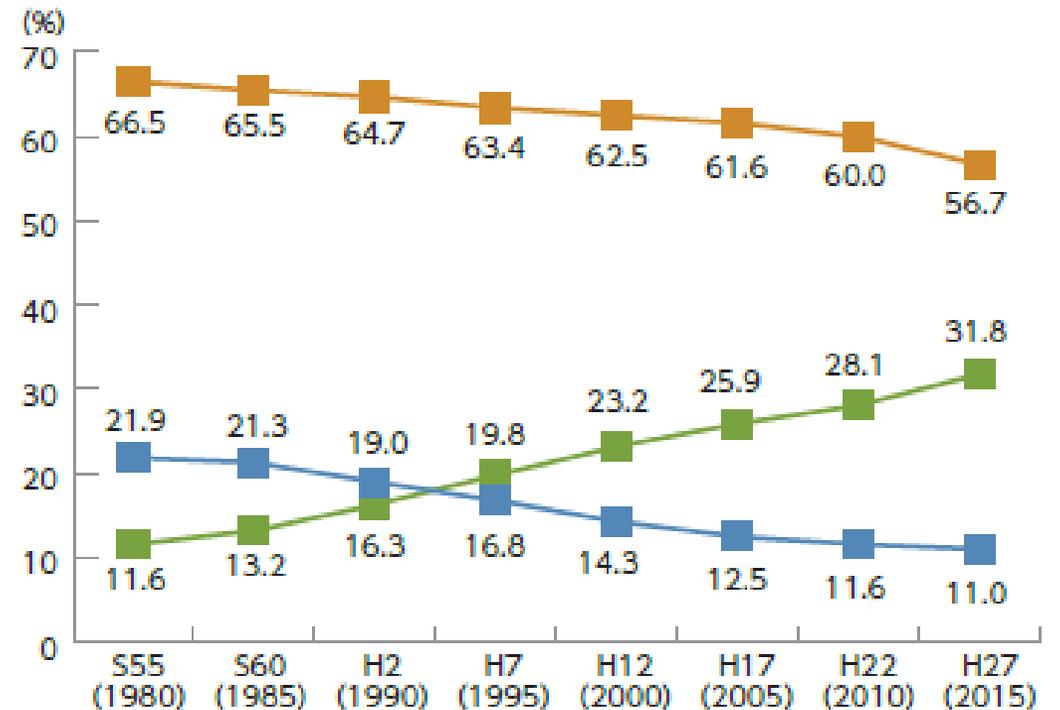
■年齢3区分別人口の推移



■年少人口 (15歳未満) ■生産年齢人口 (15-64歳) ■老年人口 (65歳以上)

・年齢不詳がいるため、各区分の合計と全体の合計が合わない場合がある。

■年齢3区分別割合の推移

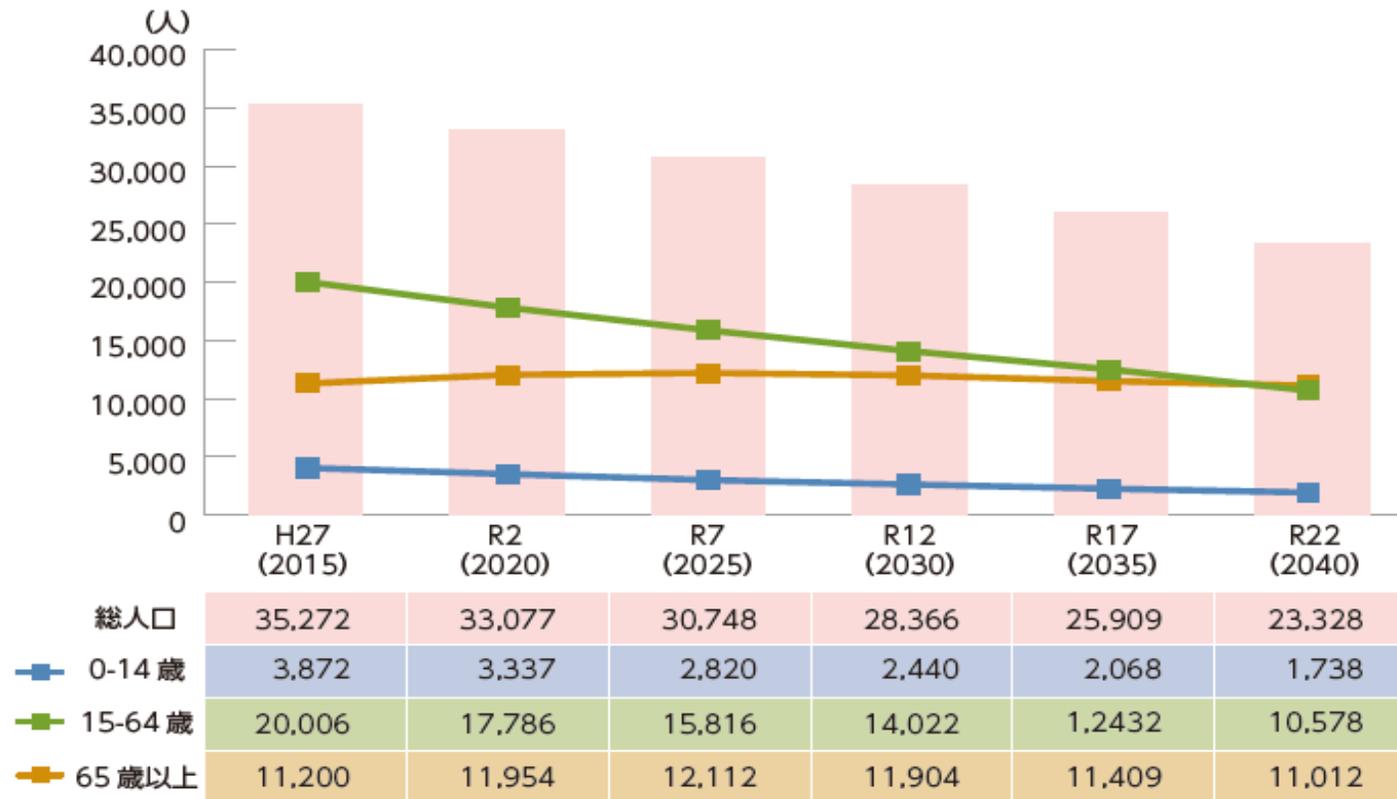


出典：総務省「国勢調査」

白石市 将来人口推計

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）の推計方法に準じた将来の推計人口（施策を講じない場合の将来人口推計）は、令和12（2030）年には28,366人まで減少し、65歳以上人口の割合（高齢化率）が42.0%になると見込まれる。

■ 施策を講じない場合の総人口及び年齢3区分別将来人口推計（社人研準拠）



・H27(2015)は、年齢不詳がいるため、各年齢の合計が総人口と合わない。

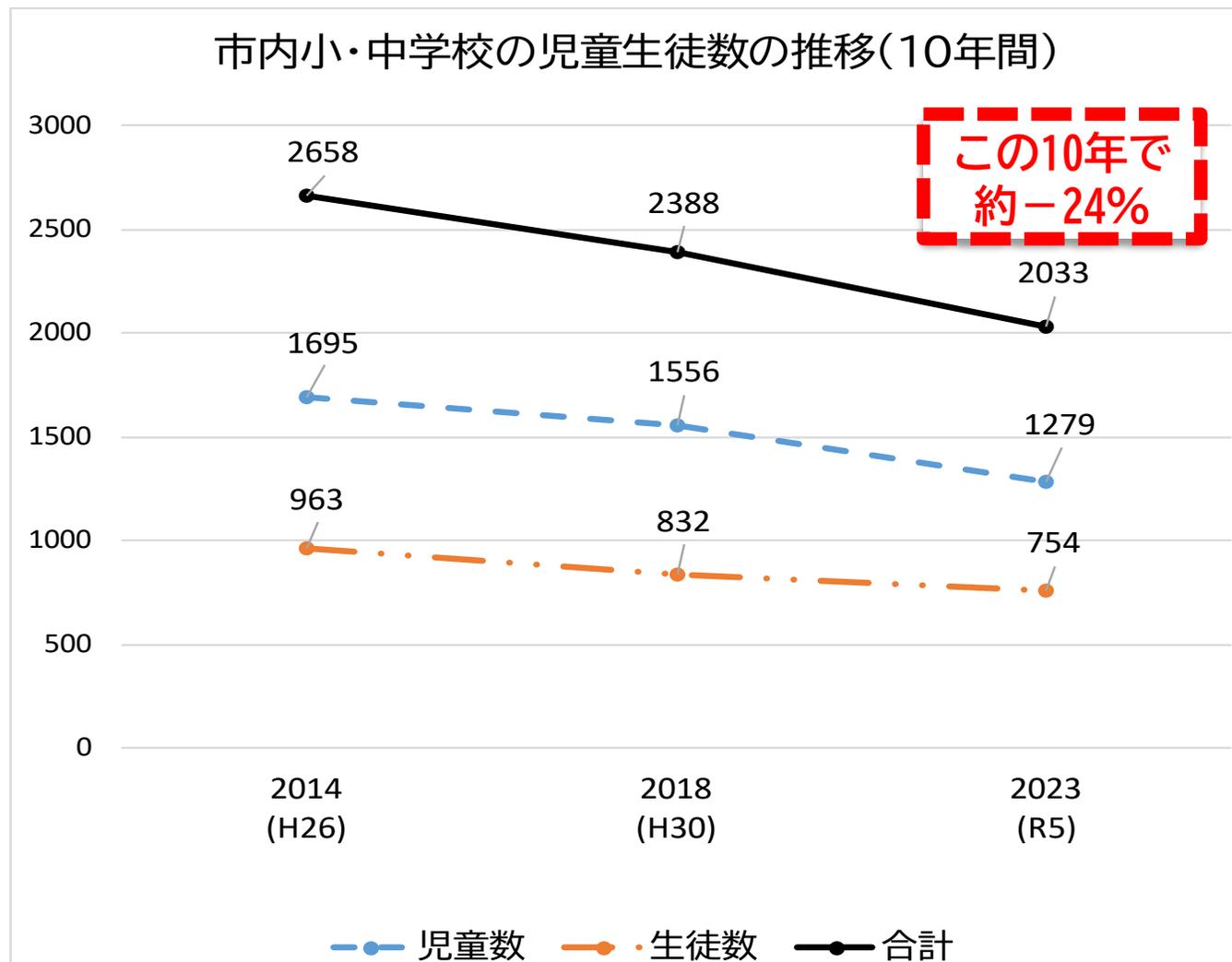
持続可能なまちであり続ける
ために

- ・ 学校教育の充実
- ・ 子育て支援
- ・ 移住・定住の促進 など

様々な施策を総合的、戦略的
に講じることが必要

児童生徒数の推移 2014～2023

	2014 (H26)	2018 (H30)	2023 (R5)
白石第一小学校	403	373	342
白石第二小学校	640	642	542
越河小学校	59	44	35
斎川小学校	30	—	—
大平小学校	84	106	79
大鷹沢小学校	111	81	29
白川小学校	72	57	44
福岡小学校	223	195	148
深谷小学校	52	48	48
小原小学校	21	10	10
白石南小学校	—	—	2
白石中学校	319	320	326
南中学校	50	21	—
東中学校	368	312	311
白川中学校	34	27	—
福岡中学校	179	134	92
小原中学校	13	18	9
白石南中学校	—	—	16



・小原小中学校：小規模特認校（H20～）

・白石南小中学校：不登校特例校（R5～）

これまでの統廃合状況

【白石市小中学校の在り方検討委員会（H25.6～27.3）】

小中学校の小規模化の進行 ⇒ 適正な学校規模の維持が困難 ⇒ 廃止・統合の提言



白石市立斎川小学校

- ・平成30年3月31日廃止
- ・白石第二小学校に統合
- ・児童数の減少



白石市立白川中学校

- ・平成31年3月31日廃止
- ・白石市立東中学校に統合
- ・生徒数の減少



白石市立南中学校

- ・平成31年3月31日廃止
- ・白石市立白石中学校に統合
- ・生徒数の減少

※R5年度不登校特例校として再活用

統廃合に向けた取組



【白石市立学校統合準備委員会設置】（H28.3）

- 白石市立の小学校又は中学校の統合について、円滑な移行を目指すとともに、所要の準備に資する
- 準備委員会は統合学校区ごとにそれぞれ設置
 - (1) 白石第二小学校及び斎川小学校
 - (2) 白石中学校及び南中学校
 - (3) 東中学校及び白川中学校

●委員

- (1) 学校の校長
- (2) 学校の児童の保護者
又は生徒の保護者
- (3) 学区内の住民
- (4) 教育委員会事務局職員



●調査検討事項

- (1) 学校の施設、備品等の調整に関する事。
- (2) スクールバスの運行及び通学路の安全対策に関する事。
- (3) 図書、文書等の保存、移管に関する事。
- (4) 教育課程、学校行事及び学級編制等に関する事。
- (5) 生活指導等に関する事。
- (6) 交流活動等に関する事。
- (7) 児童会又は生徒会、PTA等の組織に関する事。
- (8) 教材、制服、運動着等に関する事。
- (9) 記念式典等に関する事。
- (10) 広報活動等に関する事。
- (11) その他統合に関し必要な事。

賛成と反対の声...

白石市の小中学校の現状

小学校位置図

令和5年度

【学校数】

■小学校：10校
(分校4校：休校中)

■中学校：5校

(小中一貫校)

※小規模特認校1校

※不登校特例校1校

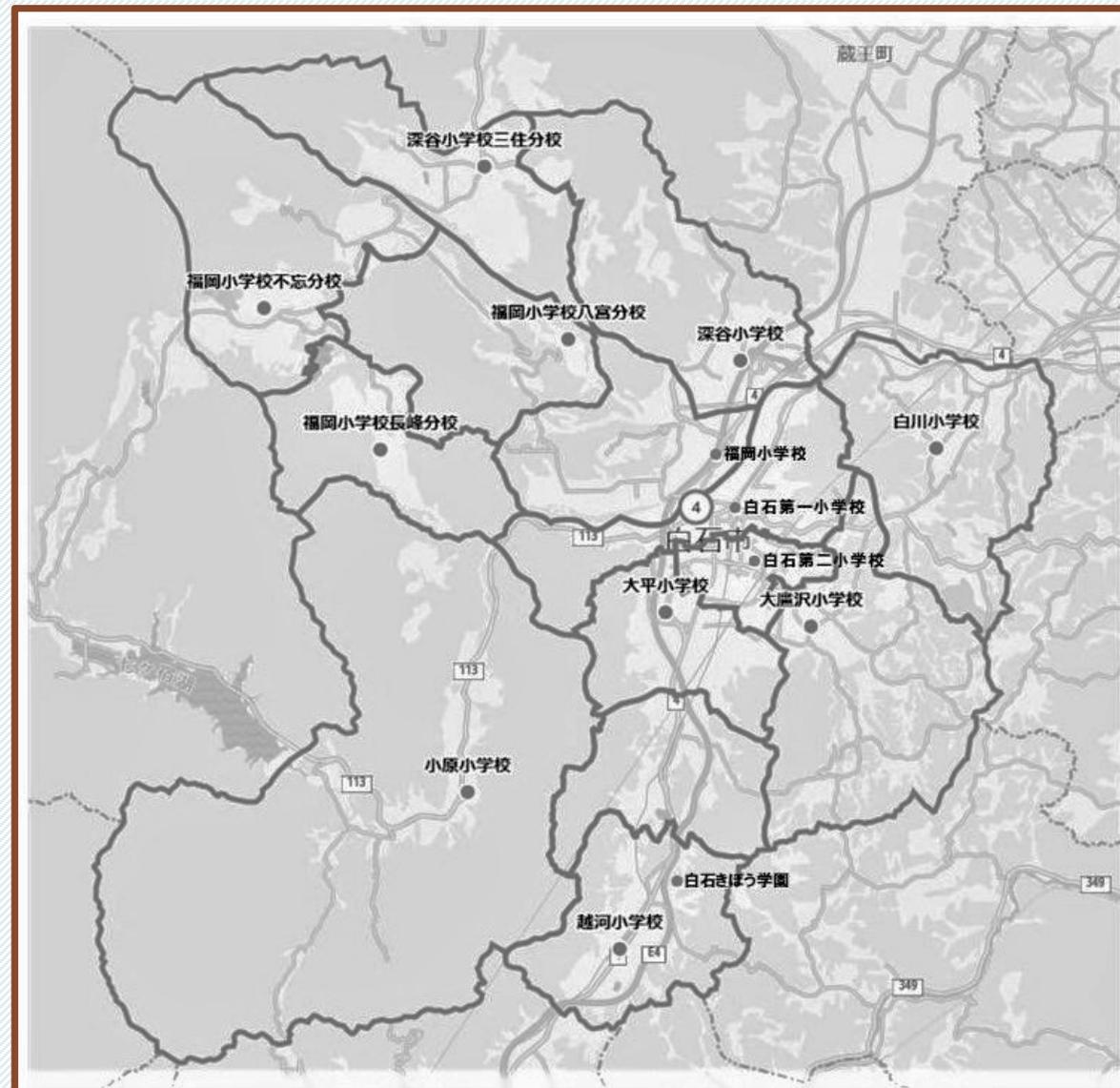
【人数】

■小学校：1,279人

■中学校：754人

【複式学級のある学校数】

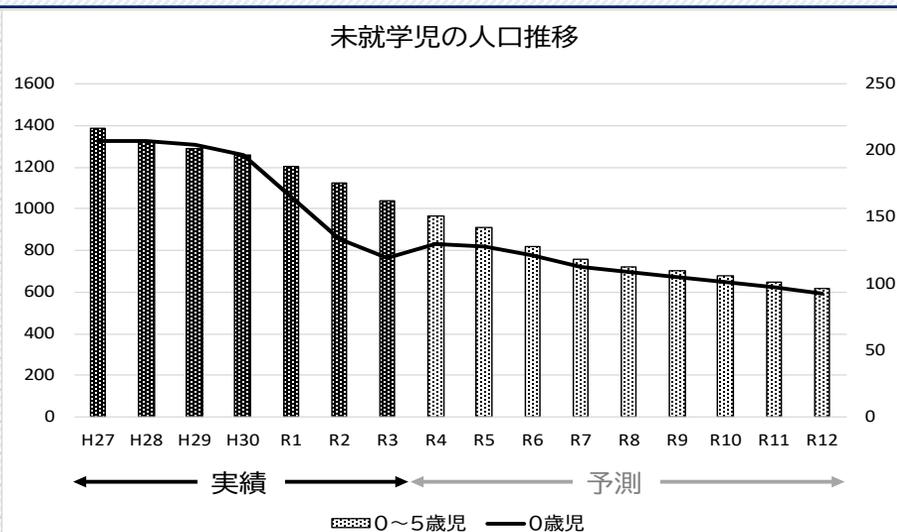
■小学校：5校



※cork（地図で調べる学区情報）を基に白石市教育委員会で作成

未就学児・児童生徒数の推移・推計

	0歳児	0～5歳児
H27	207	1385
H28	207	1328
H29	204	1288
H30	197	1256
R1	165	1203
R2	134	1122
R3	119	1041
R4	130	966
R5	128	909
R6	121	821
R7	113	760
R8	109	722
R9	105	706
R10	101	677
R11	97	646
R12	93	618



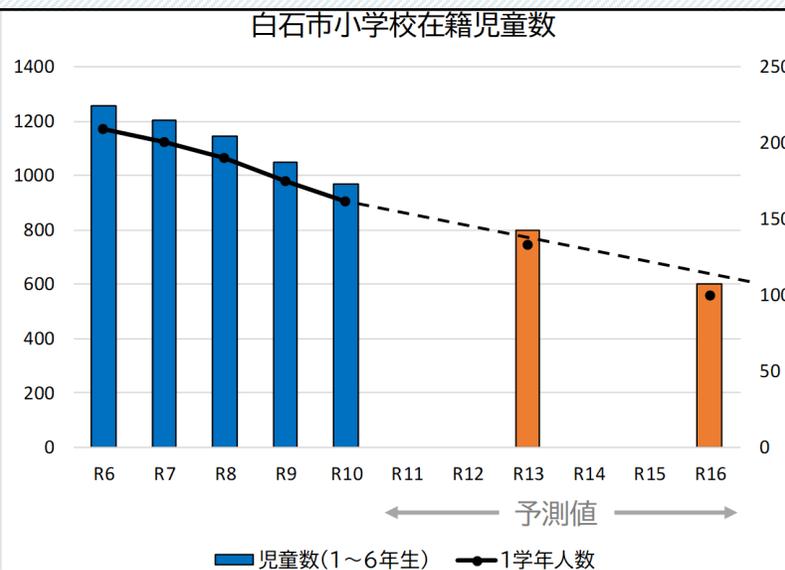
白石市の学校教育を取り巻く現状と将来予測

- 新生児の出生数が100人以下に…
- 10年後 ⇒ 少子化が急速に進行
- 市街地郊外を問わず市の全域 ⇒ 少子化が進行

予想される問題

- 中心部の比較的規模の大きい小学校 ⇒ 小1は1学級の編成（予測）
- 小規模校では、小1が10名未満 ⇒ 9校のうち6校（予想）
※不登校特例校を除く
- 令和16年度 ⇒ 全市小学校全児童数約600名
(一学年当たり100名、3学級の人数)

	児童数(1～6年生)	1学年人数
R6	1254	209
R7	1203	201
R8	1142	190
R9	1048	175
R10	970	162
R11		
R12		
R13	800	133
R14		
R15		
R16	600	100



児童数の減少：大きな課題

従来型の統廃合では
適正な学校規模とはならない

新たな学校創生（再編）

合意形成を目指して！

10年先の学校の在り方を考える！

白石市学校教育・保育審議会の設置（条例）

－教育委員会の附属機関－

学校教育及び保育の在り方を総合的に検討

審議会（委員10人以内で組織）： 教育委員会が委嘱又は任命

- (1) 学識経験者
- (2) 自治会役員その他地域を代表する者
- (3) 市内の保育園、幼稚園、小学校又は中学校に在籍する園児、児童又は生徒の保護者
- (4) 学校教育及び保育の在り方に関する議論に参加する強い熱意を有する市民であって、教育委員会の募集に応じた者（公募）
- (5) その他教育委員会が必要と認める者

第1回：令和4年3月22日 2か月に1回の開催

専門部会： 審議会に諮問された事項を専門的に調査審議

- (1) 調査審議すべき専門の事項に関して学識経験を有する者
- (2) 調査審議すべき専門の事項に関して実務経験を有する者
- (3) その他教育委員会が必要と認める者

*小中学校教育部会
*幼児教育・保育部会

随時開催

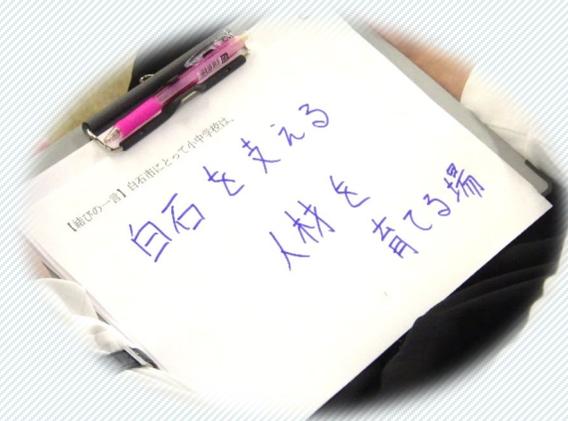
新たな学校創生（再編）

審議会・専門部会以外の取組

多様な視点・未来に直結する若者の声

「白石市の学校の魅力化を考える」子ども・若者会議の実施：小中学校教育部会主催

市内在住の高校生及び20代の若者9名が、1時間の昼休みをはさみ約4時間半、白石市の将来の学校の在り方、魅力化について真剣に話し合う。



意見集約

- 小規模校と中規模校の選択肢があることが望ましい
- 再編に当たっては、学区制はなくした方がいい

白石市の魅力や将来について

- ◆「白石市は人との温かさを感じる」
- ◆「英語を使った観光ガイドで活性化させる」
- ◆「町づくりとタイアップした教育の展開」

会議に参加して

- 「白石市のすばらしさを実感した」
- 「白石市の未来を考える機会となり、これからも考えていきたい」

新たな学校創生（再編）

審議会・専門部会以外の取組

多様な視点・現在の子育てに直結している人の声

「白石市の学校の魅力化を考える」保護者会議の実施：小中学校教育部会主催

市内小中学校及び幼稚園・保育園等の各保護者代表（主にPTA会長などの役員）約20名が参加
現状を踏まえ、学校を再編するべきかについての意見交換を2回実施



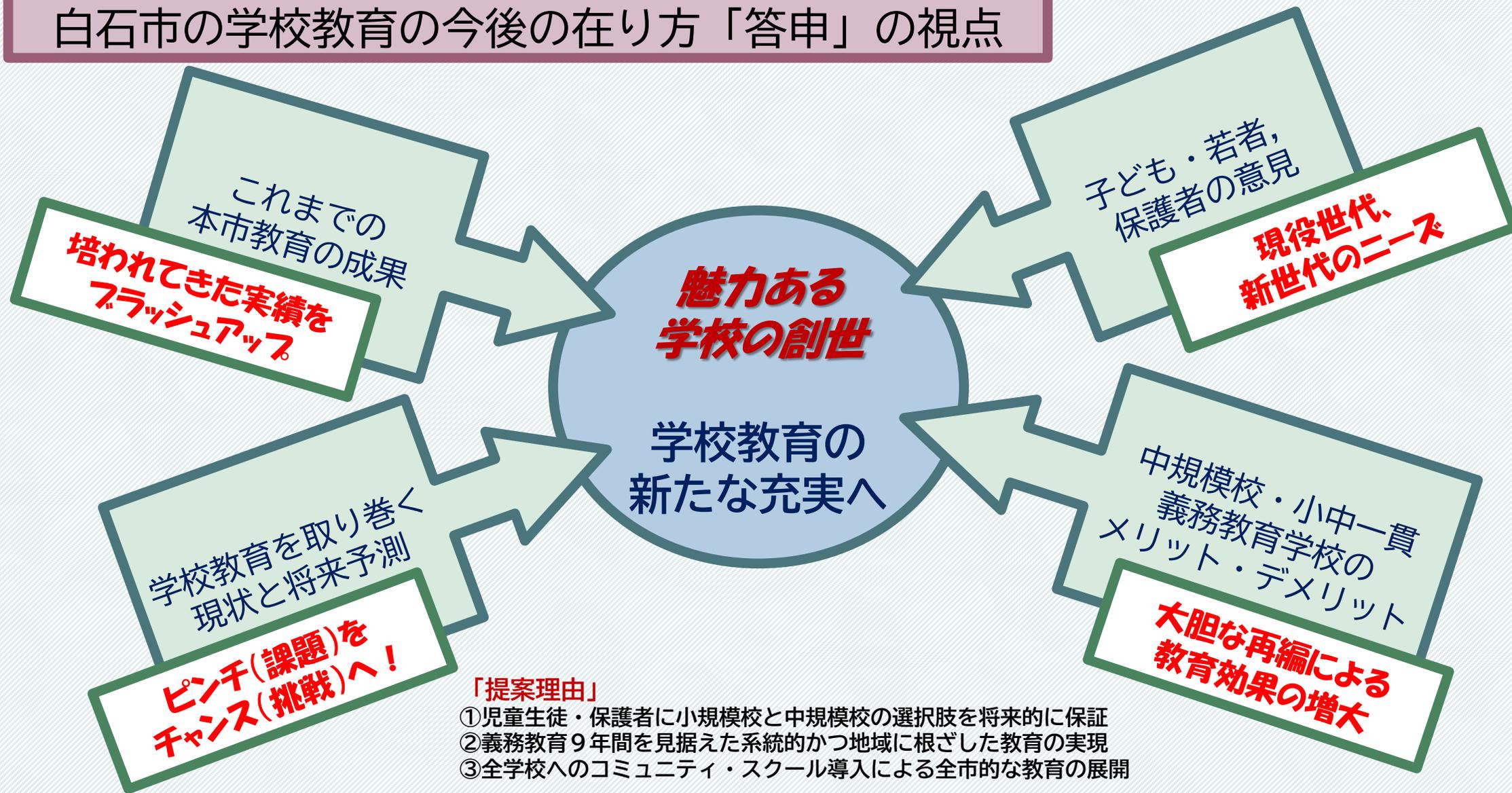
新設の小中一貫義務教育諸学校1校、小中一貫不登校特例校1校、
小中一貫小規模校1校の3校に再編する案に賛同

【再編に向けての要望】

- ①地元学（仮称）として各地域にまつわる伝承・歴史、伝統的な文化・芸能などを探究する学習を実施
- ②カリキュラムで児童生徒の個性を伸ばす教育の展開
- ③児童館や児童クラブなど放課後支援の充実が不可欠
- ④スクールバスなど登下校の交通手段への配慮が必要で、送迎付きの民間クラブ・塾の利活用も選択肢として視野に…

新たな学校創生（再編）

白石市の学校教育の今後の在り方「答申」の視点



新たな学校創生（再編）

答申の内容（小中学校教育部会）

従来型の学校統廃合ではなく、現在の小学校10校、中学校5校を、**規模の異なる3校に再編**し、教育の充実を図る

学校統合

大胆な再編

1 小中一貫義務教育学校

2 小中一貫小規模校

3 小中一貫不登校特例校

学区制なし・希望性
転出入自由

再編までの移行期を、本市の学校教育の「魅力化推進時期」と位置づけ、再編を見越した取組を開発・実施すること。

【魅力化推進時期の取組案】

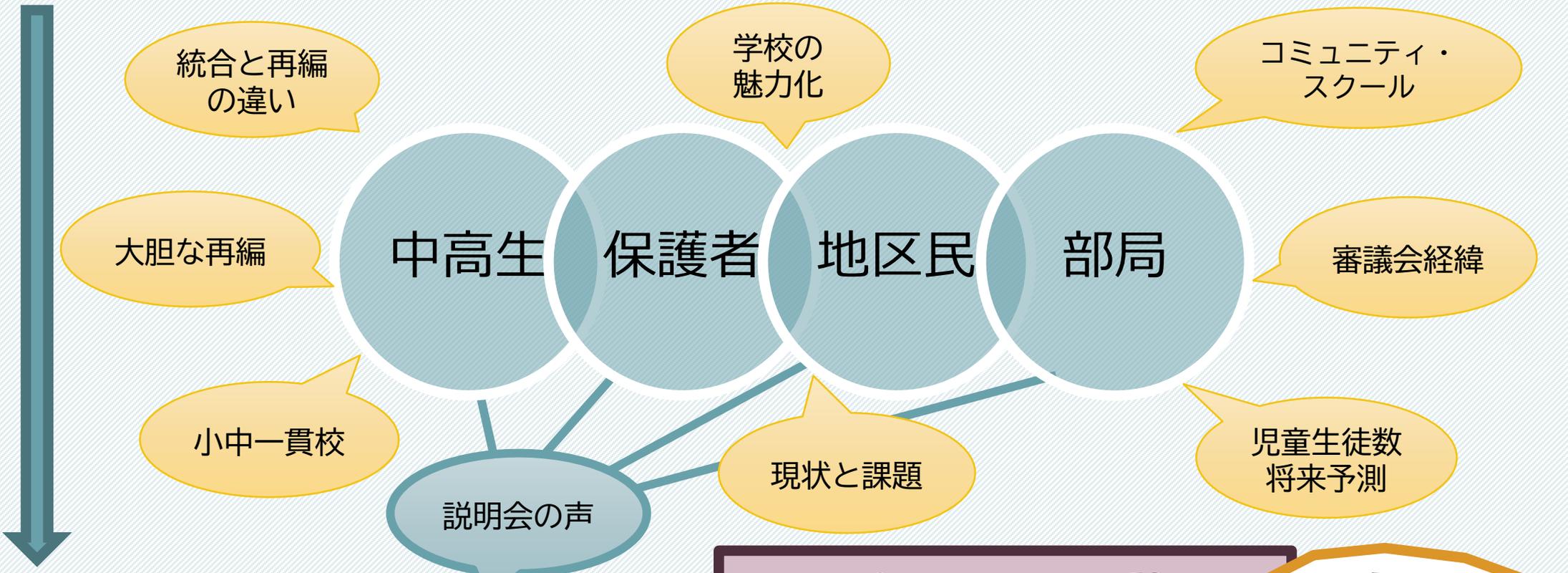
- ① 再編後の学校の魅力化を考える子ども会議の実施（p4c）。
- ② 「地元学（仮称）」の先行実施（特に小学校区相互の交流会）。
- ③ 幼保小中の保護者代表による全市的交流（再編に向けた保護者p4c）の定期的実施。
- ④ 児童クラブや児童館、あるいはそれと同等の放課後支援の実施。
- ⑤ コミュニティ・スクールの導入。

新たな学校創生（再編）

今後の進め方

説明会の実施

白石市の学校教育の今後の在り方「答申」について



市としての案を作成



合意形成

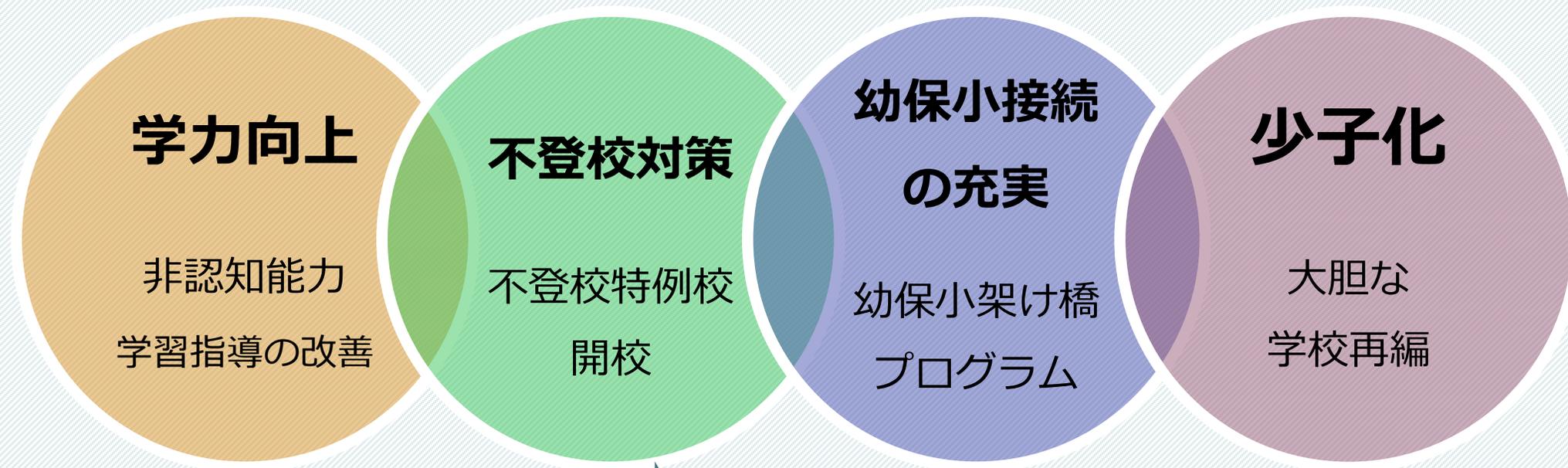
再編のキーワード

白石市の学校創生

教育改革 第2ステージ

今の学校課題を先送りにしない教育行政！

変化の激しい時代 ⇒ 学校教育の変革期



これまでの教育からの変革

学校創生 (新しいものを生み・創り出す)

全ては未来を担う子供たちの夢や志をかなえるために！

